

「（仮称）小樽市総合戦略（骨子）」に関する意見について【とりまとめ版】

《小樽市人口対策会議》

●第 1 章 人口ビジョン（全体にかかわるものを含む）

団体名（委員名）	意見
小樽商科大学 （鈴木座長）	<p>○3 頁 6 行目：「昭和 38 年」は「昭和 39 年」の誤りか。</p> <p>○グラフの年号は西暦を用いているので、本文中の年号も少なくとも西暦を併記すべき。</p> <p>○10 頁を境に「です・ます」体から「だ・である」体に唐突に変化している。文体の統一を図るべき。（28 頁、38 頁にはまた元にもどる）</p> <p>○本文中、「小樽市」、「当市」、「本市」の表記が混在している。表現の統一を図るべき。</p> <p>○25 頁：グラフにおける赤の折れ線の表示「北海道」は「札幌圏」の誤りか。</p> <p>○32 頁参考 1. 5 行目：「子ども助成比」は「子ども女性比」の誤りか。</p> <p>○33 頁（2）：赤字の「微減」は「微増」の誤りか。</p> <p>○34 頁以降：「シュミレーション」→「シミュレーション」</p> <p>○39 頁 4 行目：「昭和 43 年から人口減少」は、「昭和 40 年から人口減少」の誤りか。</p> <p>○同 11 行目：「昭和 30 年(1955)」は、「平成 30 年(2018)」の誤りではないのか（昭和 30 年当時から既に、若者人口の減少が始まっていたのか）。</p> <p>○同 16 行目：「出生数が死亡数を上回る自然減」では表現が逆。</p> <p>○41 頁 6 行目：「ベットタウン」→「ベッドタウン」</p> <p>○43 頁 9 行目：「本市の強みを活かした産業振興」の箇所は、「観光都市としての本市」を付記すべき。</p> <p>○45 頁：「基本目標Ⅱ」→「基本目標Ⅲ」</p>
小樽公共職業安定所 （宮原委員）	<p>該当箇所：P 2 5. 6 行目 「就職率」については、新規求人数を就職件数で除していることから、「新規就職率」と修正すべき。</p> <p>該当箇所：P 2 6. 1 行目 表題の図 1 6-2 新規就職率（就職件数/求職件数）の「求職件数」については、「新規求職申込件数」と修正すべき。</p>

	<p>該当箇所：P 2 9. 2 行目</p> <p>「当市」について、「ハローワークおたる」の雇用失業情勢は小樽公共職業安定所管内のすべての市町村（小樽市・余市町・仁木町・古平町・積丹町・赤井川村）を含むものであることから、「小樽公共職業安定所管内（またはハローワークおたる管内）」と修正すべき。</p> <p>該当箇所：P 3 0. 2 行目</p> <p>「当市」について、雇用失業情勢は小樽公共職業安定所管内のすべての市町村（小樽市・余市町・仁木町・古平町・積丹町・赤井川村）を含むものであることから、「小樽公共職業安定所管内（またはハローワーク小樽管内）」と修正すべき。</p> <p>該当箇所：P 3 0. 図 1 9</p> <p>「高等学校新規卒業者就職決定率」については、決定率という表現はしないことから、「高等学校新規卒業者就職内定率」と修正すべき。</p> <p>また、各年度の3月卒業の内定率の数値は、年度のどの時期の数値を使用しているのか。内定率は9月に公表し、その後上昇し約100%となるものである。</p>
<p>小樽商工会議所 （佐林委員）</p>	<p>① P 3. 1- (1). 1 行目</p> <p>「昭和38年の206,660人がピーク」となっていますが第2章総合戦略のP 3. 1- (1). 5 行目では「昭和39年9月の20万7千人をピーク」となっており、整合性がとれていません。</p> <p>② P 1 0. (3). 1 行目</p> <p>「1959年（昭和39年）」→1959年（昭和34年）</p> <p>③ P 2 5. 図 1 6-1</p> <p>赤色の折れ線グラフ「北海道」→札幌圏</p> <p>④ P 3 9. 2- (1). 2 行目</p> <p>「昭和43年（1968年）」→昭和39年（1964年）</p>
<p>一般公募 （荒木委員）</p>	<p>資料全体を見た率直な意見ですが、人口対策委員に任命されてから他都市の総合戦略も見erようになりましたが、女性の子育て、雇用の問題等しかり、どれも重要ではありますがいただいた総合戦略も含め、正直どこも似たような印象を受けます。</p> <p>※今回の資料にアンケートは添付されていないようですが、いつ結果がでるのでしょうか？</p>

	<p>理想ばかりが走り過ぎているような気がします。市民皆さんの深いところを率直に知りたいと思いました。（人口減と騒がれているこの世の中、小樽市民は何を求めているのか、何を感じているのか等）</p> <p>市民全員の意見をくみ取るとは難しいですが、本当に求めていることがわかった上で、戦略を決めてからでも遅くはないのかなと感じました。</p> <p>具体的な事は9月1日にお伝え致します。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●第2章 総合戦略

団体名（委員名）	意見
<p>小樽商科大学 （鈴木座長）</p>	<p>○3 頁 12 行目：「イメージに反転しやすい」は、「イメージを獲得しやすい」としたほうが分かりやすい。</p> <p>○4 頁下から 8 行目：「航路」の文言がひとつ余分。</p> <p>○5 頁上：急に 2 字分インデントが下がっている。</p> <p>○6 頁 4 行目：「試金石」はやや不適當。「手がかり」、「第一歩」、「基本方針」など、行動面を強調した文言の方が適當かと考える。</p> <p>○同最終行：一行上げる。</p> <p>○7 頁下から 4 行目：「図る」→「図ります」</p> <p>○同最終行：「市民の幸福度向上を実現します」→「市民の幸福度向上についてより明確なビジョンを示します」（指数化することで幸福度向上が実現するわけではない）</p> <p>○8 頁下から 2 行目：(Act)→(Action)</p> <p>○10 頁下から 4 行目：「港とともに歴史と文化を形成」→「港を中心とした伝統ある歴史と文化を形成」</p> <p>○13 頁 5 行目：「シームレスに移行できるよう取り組む」について、何をシームレスに移行できるよう取り組むのかを明記する。</p> <p>○同 7 行目：「女性が安心して働くことのできる環境づくり」の「女性」に「子育てをする」の文言を付記。</p> <p>○同下から 3 行目：「本市における阻害要因」について、阻害要因を具体的に表記した方が分かりやすい。</p> <p>○14 頁 8 行目：「出生数増と死亡数減」について、出生数増は施策により可能だろうが、死亡数減は可能だろうか。</p> <p>○同 9 行目：「特殊出生率の向上」→「特殊出生率を向上」</p>
<p>中小企業家同友会 （高橋委員）</p>	<p>施策の方向性（8）の「教育水準の向上」ではなく「教育環境の向上」に改めたほうがいいと思います。なぜなら教育環境の向上の結果として教育水準も上がるものだと考えられます。生徒が減少したからと言って統廃合に進むという短絡的な考えは教育という観点から外れているのではないのでしょうか？（13 p）</p>

<p>子育て支援ワーカーズ (新谷委員)</p>	<p>第2章総合戦略P 11～将来の都市像を実現する為の施策 図表中の施策の方向性で</p> <p>⑥出産、育児がしやすい環境づくり⑦女性が安心して働くことのできる環境づくり⇒施策パッケージのあんしん絆再生プロジェクトの内容が「高齢者が安心して～」現在も同じ施策理由から</p> <p>「子育て世代が安心して子供を産んで、高齢者も子供達も生き生きした地域社会を実現する」に修正を願う。</p> <p>* 樽っこプライド育成プロジェクトに含まれているのかと思うが小樽市民の少子化問題を明確にしていく姿勢が見えるほうが良いのでは。まずは産まなければ進みません。</p>
------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

● 小樽市総合戦略【概要版】

団体名（委員名）	意見
小樽商科大学 （鈴木座長）	○「施策の方向性」から「施策パッケージ」に引かれる線の疑問 ・⑤から「あんしん絆再生プロジェクト」への線がない。 ・⑥から「樽っ子プライド育成プロジェクト」への線がない。 ・③から「樽っ子プライド育成プロジェクト」への線がある。 ・⑧から「6次観光化プロジェクト」への線がある。 など。